

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第8号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和7年12月1日発行

恩送り

校長 越智 宏明

早いもので2025年も最終月に入りました。皆さんにとって今年はどのような一年間でしたか？私にとっての2025年は、多くの人の優しさに触れた貴重な年であったと感じています。

今年から「大原スーパースター賞」という、人のために善い行いをした生徒を全校生徒に紹介表彰する場を設けました。1学期終了時点で表彰した生徒は4名でしたが、2学期末には新たに一挙12名の生徒がこれに加わる予定です。道路で体調が悪くなったお年寄りを介護し、救急車が来るまで付き添った生徒、自転車で転んで怪我したお年寄りを学校まで連れてきて介護した生徒、地域のボランティア活動に一人で何度も参加している生徒、大会会場で最後まで残ってゴミ拾いをしていた生徒…。多くが地域の方から後日、ご連絡をいただいたものです。もちろん生徒たちは表彰されるためにこうした行いをした訳ではなく、日頃の行動の中で「当たり前」のこととして、とっさに行った行為なのでしょうが、そのことが結果的に多くの人たちの中で、「優しさの輪」として広がっていることに何とも言えない嬉しさを感じずにはいられません。

実は、私自身、今年多くの人の連携プレーに助けていただくという経験をしました。

10月のある日、所用で東京に出かけたのですが、大変忙しい日が続いていたためか、浦和に戻る満員電車の中で私は体調を崩し、貧血気味になってしまいました。なんとか浦和駅まで辿り着いたものの、そこまで既に限界。ホームを歩いていた際に私は意識を失い、そのままホームで気を失ってしまったのです。

ここからは、後で救急隊と病院の方から聞いた話ですが…。私はホームで仰向けに倒れた際、後頭部を思い切りぶつけてしまい、その音は、隣のホームまで響きました。ラッシュの時間帯でホームは人が溢れかえっていましたが、私の周りにはすぐに人の輪ができて、ある人は駅員さんを呼びに行き、またある人は自動販売機に水を買いに走り、別のある人は私を抱きかかえたまま携帯電話で119番に通報し、更に別のある人（隣のホームから駆け上がってきたそうです）は、「私は看護師です!」といって応急手当を行ってくれたそうです。救急隊が到着するまでの十数分間、そうして十人以上の方が私に寄り添っていたのだとか。私はすぐに救急車に乗せられ、近くの病院に搬送されました。病院に着いた時にはすっかり意識も戻り、検査の結果も異常はなく、そのまま帰宅の途についてよいと医師から言われたのですが、その時私はある事実に驚愕したのです。誰にお礼を言ったらいいのか、その相手を一人も知らないということ！駅員さんと呼んでくれた人も、自動販売機で水を買ってくれた人も、119番をかけてくれた人も、隣のホームから駆け上がってきたという看護師さんのことも！恐らく、全く見ず知らずの他人同士が、私が頭を打ち付けた瞬間、即座にワンチームとなって連携し、私が救急車で搬送されたのを見送った後は、またそれぞれバラバラにそれぞれの家路や職場を目指して散っていく…、まるで何事もなかったかのように。私を救ってくれた人々がめいめいに散っていく様子を思い浮かべ、私はただ心の中で頭を下げ続けるしかありませんでした。

「恩送り」という言葉があるのをご存知ですか？「恩返し」が「受けた恩恵を直接その人に返すこと」なのに対して「恩送り」は、「その恩恵を与えてくれた人ではなく、別の第三者に親切や助けとして提供すること」を指します。イメージとしては、受けた恩恵がリレーのバトンのように次から次へと受け継がれていくといったところでしょうか？私は今年、名前も顔も知らない人たちから言葉では言い表せないほどの大きな恩を受けました。その人たちに「恩返し」ができないのなら、せめてその受けた恩を目の前にいる大原中学校の生徒や保護者、地域の方々に対して精一杯の力を尽くすことで「恩送り」をしたいと思っています。もうすぐやって来る2026年が皆様にとって幸せにあふれた一年となるよう、また多くの優しい想いが次から次へと受け継がれていく安らぎに満ちた一年となるよう、お祈りいたします。

今年も一年間、大原中学校の教育活動にご理解とご支援をいただき、ありがとうございました。



10月20日の合唱コンクール全校生徒で歌った「心の中にきらめいて」。歌詞のとおり、今年一年間、みんなと過ごした思い出の一瞬一瞬が心の中に輝き続けてくれることを願います。